相沢忠洋記念館会報 No.1 2002.1.1 http://www.interq.or.jp/gold/waki/aizawa

夏井戸だより

新年によせて
—— 相澤さんとの出会い 芹沢長介
夏井戸だより創刊にあたって
相沢千恵子
相澤忠洋顕彰碑建立を実現して 河原井源次
相澤忠洋氏の胸像制作によせて 沼野章彦
胸像銘文 芹沢長介
捏造事件に思う 相澤千恵子
ボランテァ募集
胸像建立式感謝状
会員ネットワーク

謹賀新年

新年によせて —— 相澤さんとの出会い

名誉館長 芹沢 長介
東北大学名誉教授

最初に私が相澤忠洋さんにお会いしたのは、1949年7月27日のことであった。東京の世田谷区赤堤にある江坂輝弥君の家に先客として相澤さんが来ており、私は江坂君からはじめて紹介されたのだった。そのとき、相澤さんは岩宿のローム層の崖面に一端を露出していた黒耀石製の石槍を発見した、ということを私に打ちあけてくれた。この石槍はローム層の時代のものではないだろうか、と相澤さんは考えていたのだが、その話をしても誰も相手にしてくれないというのだった。当時、最古の縄文土器といわれていた稲荷台式土器の破片は、ローム層の真上から多く出土し、時にはローム層の中にくいこんで発見されることもあったので、私は稲荷台式土器以前の遺物は、ローム層の中に埋もれているのではないかと考えたこともあった。そうだ！ローム層の中にこそ縄文時代以前の石器が含まれているのだ！ 相澤さんの言葉が私の頭の中をかけめぐりまさに「眼からウロコ」が落ちた思いであった。

それから47日目の同年9月11日、群馬県から3名（相澤・堀越・加藤）、東京から3名（杉原・岡本・芹沢）の6名によって、岩宿A地点のローム層中から16点の石器が発掘された。ここに岩宿遺跡および日本における旧石器文化の存在が明らかにされたのであった。明治大学による発掘は、この日の発掘の成果を見て、9月12日以後に計画され実施されたのである。この歴史的事実を、私は当事者として明らかにしておく。

宮城県座散乱木遺跡は「第２の岩宿の発見」（岡村2000）とか、座散乱木遺跡の発掘によって「前期旧石器論争は、ここに結着したといえる」（同1983）などと20年間にわたって喧伝されたこの遺跡も、藤村新一氏によって捏造されたものであることが判った。座散乱木・馬場壇の異様なまでの喧伝の裏側には、かならず星野や岩宿D地点の石器は自然石であるという（岡村1990、1996他）執拗なまでの論難がついてまわった。

前期旧石器の研究は、早水台・星野・岩宿D地点の調査のような正道に戻ろうではないか。相澤さんの手がけた夏井戸や磯の資料もまだ眠っているのである。

「夏井戸だより」創刊にあたって

館長 相澤 千恵子

美しい赤城山麓に人類の足跡を求め、村々を踏査することから始められた相澤忠洋の日本人のルーツの探求は、縄文時代が最古と考えられていた我国の歴史を相澤忠洋の「岩宿の発見」によって旧石器時代まで遡ることになり半世紀が過ぎました。相澤はこの岩宿を出発点として旧石器研究に没入し、権現山・不二山・桐原・三ッ屋・桝形・磯と次々に遺跡を発見し、そして最後の発掘現場となったのが「夏井戸遺跡」でした。夏井戸は新里村大字奥沢字夏井戸と呼称される小字（こあざ）名です。夏の渇水期にも豊かな水が湧き出ていた場所としてこの名が付いたと思われます。遺跡命名に際し「奥沢遺跡」では全国的にある地名であるから「夏井戸が良い」と芹沢長介先生に命名して頂いた、と相澤から聞いております。雑木林の中にある夏井戸遺跡からは、平安時代の円面硯・須恵器片・縄文時代の遺物、そして旧石器が出土しました。この地に相澤は赤城人類文化研究所を創設し、その後三回忌を期して相澤忠洋記念館を開設しました。この度、機関紙を創刊するにあたり、この地名を冠し広く各位に当館の活動と相澤の残した資料等を掲載し学術研究の一助となればこの上ない幸せと存じます。

『相澤忠洋顕彰碑建立』を実現して

会長　河原井　源次

相澤忠洋後援会初代会長・塚越平人氏より二代会長を継承したのは、平成11年4月のことである。私が最初に提案したのは、相澤忠洋の祥月命日に菩提寺に於いて献花式を行う事であった。間もなく5月22日の祥月命日を迎え、初めての献花式を桐生市の薬王寺墓前に於いて実行した。この時、以前から考えていた相澤忠洋の業績に対し顕彰碑建立について初めて語った。すると30名ほどの出席者全員が賛成して下さったので6月の総会に提案し、満場一致で顕彰碑建立が正式に決定した。相澤館長とも協議し碑文は芹沢長介先生にお願いする事。彫像制作は数年前に頭像を寄贈して頂いた沼野章彦先生に打診する事等、決めて行った。

そして、顕彰碑除幕式を平成13年の相澤忠洋の祥月命日5月22日と目標を定め募金活動を開始した。その結果、後援会会員を初め会員以外の多数の人々のご協賛を頂き、ブロンズ胸像が完成した。しかし、笠懸町教育委員会と設置場所につき意見の相違が生じ、当初予定した命日には間に合わず9月に延期となった。除幕式は9月16日（日曜日）と決定した。当日は快晴に恵まれ真夏の様な日であったが、150名ほどの人々のご参集を頂き盛大な除幕式となった。関係者の一人として紅白の除幕の綱を引き白布の下より相澤忠洋の胸像が現われた時の感激は忘れられない。私の発想が人々に受け入れられ実現し、私の歩みとして残せたことに感謝している。

魚棲まぬ水底のごと翳りふかき
夏井戸にきてひとり佇む

昭和48年9月6日　　芹沢長介

相澤忠洋は昭和二十一年十一月、群馬県新田郡笠懸村の切通道で黒曜石片の散布を認め、さらに同二十四年七月、同所の関東ローム層中に包含されている黒曜石製尖頭器を発見した。同年九月十一日、相澤忠洋・塚越靖久・加藤正義・杉原荘介・岡本勇および芹澤長介の六名によって反対側崖面の試掘が行われ、関東ローム層の上層から石器六点、石片五点、下層から石器八点、石片四点が出土した。ここに岩宿遺跡が誕生し、日本における旧石器時代の存在がはじめて確認されたのであった。同年十月、明治大学考古学研究室による第一次調査が実施され、さらに三十年後の昭和五十四年八月十七日、岩宿遺跡は国指定史蹟となった。

平成十三年九月吉日

東北大学名誉教授
芹澤長介　識

胸像台座に嵌め込まれた銘文（芹沢長介先生筆）

相澤忠洋氏の胸像制作によせて

沼野　章彦
彫刻家・日彫会会員

今から八年前に「相澤忠洋氏の彫刻を記念館に寄贈したいから…。」と義母から制作を依頼されました。そこで忠洋氏の著書を読み、氏の考古学へのひたむきな情熱に深い感銘を受けました。そして、相澤忠洋記念館に行き、相澤千恵子館長から忠洋氏のお写真をお借りして、制作に没頭しました。ブロンズの頭像が完成し、「相澤の若い時にそっくり」と千恵子館長が喜んでくださったので、ほっと胸をなでおろしました。

それから五年後の平成十一年に、相澤千恵子館長から岩宿遺跡に建立する胸像の制作依頼を受け、大変光栄に思いました。今度も記念館で忠洋氏のお写真を見せていただき、胸像のポーズを考えました。そして日本に旧石器時代が存在したことを初めて証明した黒耀石の槍先形尖頭器を見つめているポーズに決めました。さらに千恵子館長が忠洋氏のお写真のコピーを送ってくださったので順調に制作、を進めることができました。特に清水美術鋳造所でのブロンズの蝋型の仕上げの過程はとても充実した時間となりました。

相澤忠洋胸像
（沼野章彦氏制作）

平成十三年九月十六日に行なわれた除幕式に出席し、たくさんの方々の前で、心のこもった感謝状をいただき感激しました。相澤氏の胸像が岩宿遺跡の最もふさわしい場所に設置され本当によかったと思います。

相澤千恵子館長をはじめ、忠洋氏を敬愛する多くの方々のご尽力の賜物だと思います。その後の懇親会も心あたたまるすばらしい会でした。相澤氏のひたむきであたたかなお人柄が皆様の心を引きつけてやまないのだなと感動しました。

相澤忠洋氏のブロンズ像は私の代表作と思っています。このようなすばらしい機会を与えてくださった千恵子館長はじめ、ご関係の皆様に厚く御礼申し上げます。

最後に私の妻の母八木淑子が相澤忠洋氏の頭像とともに贈った短歌をもって、終りたいと思います。

「上野野赤土（かみつけぬ）に君は親しみて
古代人の団欒（いにしえびと　まどる）究めつ」

捏造事件に思う

拝啓

美しく紅葉した記念館の雑木林も、赤城風に落葉する季節となりました。

さてこの度、日本中を震撼させた「旧石器発掘捏造」事件では、会員の皆様を初め、関係者の皆様に多大なご心痛とご心配をおかけし、各方面より温かいお心遣いと励ましを賜り心よりお礼申し上げます。

11月5日早朝、この事件の知らせを受け慌ただしく1か月が経過しました。

その間、新聞各社よりの取材、TBSテレビ、テレビ朝日等の取材班も参りました。事件を起こした藤村新一氏に第1回（平成4年）相澤忠洋賞を贈呈した事に対する取材でした。

藤村氏の賞の対象は、昭和56(1981) 年頃より調査していた宮城県の座散乱木遺跡によって日本の前期旧石器時代存否論争に終止符が打たれました。その発見者としての功績に対し贈呈したのです。

又、第4回（平成7年）東北旧石器文化研究所の団体に、上高森遺跡発見の功績に対し、相澤忠洋賞を贈呈しておりました。

今回、捏造事件の発覚により第1回（藤村氏個人）と第4回（団体）の双方の賞状は11月12日に返納して頂きました。

藤村氏と相澤では、遺跡に対する考え方に大変な相違がありました。相澤は、「遺跡は、古代人の温もりの跡であり、一家団欒の跡だから大切なのだ。出土する遺物ではない。これを間違えるな」と申しておりました。「考古学が好古学になってはいけない」と常に戒めておりました。

この度の藤村氏の行為は、相澤の遺跡に対する心情に反し、考古学を志す人々、考古学に関与する総ての人々の心に深い傷を負わせました。回復するには、かなりの時間を要すると思います。瀕死の重傷から立ち上がらねばなりません。

様々なマスコミの報道で、岩宿遺跡と相澤の事が報じられ、相澤忠洋記念館が知られる契機となりました。遠方よりの場所の問い合わせが増えております。

新しい世紀を迎える明年は、災い転じて福になる予感が致します。

一生懸命頑張りますので、今後共よろしくご支援下さいます様お願い申しあげます。

平成12年師走

相澤忠洋記念館館長　相澤　千恵子

（この文は、相澤記念館館長が捏造事件の2か月後に会員および関係者に送った挨拶文である。ここに再録した。）

感謝状

芹澤長介 先生

相澤忠洋顕彰碑を岩宿遺跡B地点に建立するにあたり銘文に「相澤忠洋は昭和二十年終戦直後新潟県長岡市の切通遺跡の石器発掘を通じて、さらに三十年十月所の関東ローム層中に日本最古の岩宿遺跡を発見し、日本に於ける旧石器時代の存在を明らかにされたのである。同年十月期待大学考古学研究会にも第一次調査が実施され、さらに三十年後昭和五十四年八月十日岩宿遺跡は国指定史跡となされ、遂来して下さいました。これは相澤忠洋の功績を岩宿遺跡の学史的意義と共に後世に伝える偉大な顕彰碑建立に関わった総ての人々に深い感謝を捧げるものであります。

ここに顕彰碑除幕式に際し記念品を贈り感謝の意を表します。

平成十三年九月十六日

笠懸町
町長 田村確治

相澤忠洋記念館
館長 相澤千恵子

相澤忠洋記念館復興後援会
会長 河原井深

感謝状

沼野章彦様

岩宿遺跡に相澤忠洋顕彰碑が建立されにあたり先に銘文上彫刻師に上野耕平氏は相澤忠洋の顕像を寄贈して戴きましたことにより胸像製作をお願い致しました。そしてこの度、相澤忠洋の人間性を深く洞察し製作取り組んだ両手の大熱意をもって新石器の全縮直視して、真摯な相澤の胸像を完成されました。この姿は相澤忠洋が遺跡に賭けた人生を具体的に表した彫像と顕彰碑として最もふさわしいと思います。

ここに顕彰碑除幕式に際し記念品を贈り感謝の意を表します。

平成十三年九月十六日

相澤忠洋記念館
館長 相澤千恵子

相澤忠洋記念館復興後援会
会長 河原井深

感謝状

有限会社
岩森産石店殿

相澤忠洋顕彰碑建立に際し安全性を配慮した青梅の優秀な永年の技術により巨大な自然石の台石に設置されたブロンズ胸像を指定の場に完全に施工し、この顕彰碑とのバランスを考慮した美しい刻の前石にも寄贈して下さいました。

この前石により顕彰碑の建立の場が調和のとれた趣いの空間となりました。ここに顕彰碑除幕にあたり記念品を贈り感謝の意を表します。

平成十三年九月十六日

相澤忠洋記念館
館長 相澤千恵子

相澤忠洋記念館復興後援会
会長 河原井深

胸像建立にご尽力頂いた3氏に送った感謝状

会員ネットワーク

（ご意見ご感想などおハガキでおよせください）

記念館にある感想ノート・ハガキより

① 2001.5.28

相沢忠洋さんの発掘当時、相沢さんのうしろをチョロチョロとついて歩いた少年（吉田次雄）を父に持つ私としては、子供の頃からずっと岩宿の話を聞き、ずっと記念館へ来てみたいと思っておりました。こんな立派な方の人生を知り、感げきいたしました。

これからもずっと守りつづけていかれる奥様もすてきに見えました。これからのご発展をお祈りいたします。（横浜市・吉田めぐみ）

② 2001.8.5

相沢さんは私の生まれる１年前になくなったから知らない人だけど、とてもい大な人なんだとてんじされてるのを見て思った。ひまがあればまた見に来てもいいと思う。とても勉強になった。

（東京都練馬区・斉藤由貴奈　11歳）

③ 2001.8.12

考古学の授業で、相沢さんの研究所があると聞いて以来、来てみようと思っていました。今回が２回目です。岩宿遺跡から出た黒耀石の石槍が、私には美しく輝いて見え、相沢さんがこの石器を発見したということがとっても印象的に感じられます。相沢さんの話を聞いたことがありますが、とてもめぐまれたものではないけれども、遺跡に情熱をかけられ自分の好きなものに熱中できたことは、普通の人々が平凡に一生を送っていくことを考えればとても幸せだったのではないかと思います。ここに展示されている石器が相沢さんの情熱を語りかけてくれるようでした。

日本の歴史を書きかえた証拠に触れることができて、とてもうれしかったし、感動しました。私もこれから精進していくよう頑張ります。

（深谷市・柿沢陽一）

④ 2001.8.31

相沢忠洋先生の業績を40年前に教えられ、立派なお仕事に尊敬の念をもって生きてきました。今日病気の主人と訪問でき感がいひとしおです。

ありがとうございました。（前橋市・森和恵）

⑤ 2001.9.9

将来、相沢さんのような考古学者になりたい。

世界の遺跡を見て来たい。（とくにエジプト）

（名無しのごんべさん）

⑥ハガキより

毎日、不順なお天気が続いております。

先日、東京の杉並第十小学校施設利用協議会郷土史講座で落合氏に案内されはじめて記念館を見学出来ました。丁度大雨の日でしたが、参加者一同大変喜びかつ感動いたしました。

日本考古学旧石器研究の第一歩を相沢先生が歩まれ、この功績は素晴しいもの、永久に日本歴史の一頁に刻まれるものと感動をうけました。

私共も戦後このニュースを聞いて驚き、岩宿といえば何にをおいても相沢さんと思って居ります。あいにく奥様とお会い出来ず残念でしたが、今後共宜敷くお願いします。ご自愛ください。

（杉並区・原田弘）

相澤忠洋記念館のお知らせ

企画展　写真展「相澤忠洋の世界」

4月23日～長期

モニュメント除幕式

5月19日（予定）

相澤忠洋記念館後援会行事案内

献花式・総会　5月19日（日）

相澤忠洋記念館ボランティア募集

夏井戸のコナラ林で自然を楽しみながらの作業があります。ご参加をお待ちしてます

★記念館解説者　★資料整理

後援会入会のお誘い

入会随時：お問い合わせください

石器作りなどの体験教室に参加できます。

雑木林

今回「忠洋会々報」を改め、装いを新たに「夏井戸だより」として発刊することになりました。名付け親は相澤館長、題字は芹澤先生です。年２回の発行を予定しています。今号は昨年９月に行われた胸像除幕式を中心にまとめましたが、次号からは相澤忠洋の業績を軸に、館や後援会の動向、さらには会員の頁等を予定しています。積極的な参加と御意見等をお寄せ下さい。夏の暑い最中、喉を潤す一杯の井戸水の様な存在になりたいと願っています。

ごあんない

開館時間	10:00~17:00	駐車場	大型バス可
休館日	月曜日、12月29日~1月3日	交通	東武赤城駅下車 4km
入館料	大人500円 こども200円		タクシー 10分
団体割引	大人400円 こども150円		

相澤忠洋記念館会報　No.1　2002(平成14)年1月1日発行©

発行　相澤忠洋記念館

編集　相澤忠洋記念館後援会

〒376-0131　☎0277-74-3342　FAX74-3350

群馬県勢多郡新里村奥沢537